登録コード	T0H09900	開講年度	2026				
授業科目	博物館実習Ⅰ(16T以降)					担当教員	梅干野　成央
英文授業名	Practice of Museumology 1					副担当	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中･不定期	対象学生	
講義室			授業形態	実習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						

(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】	⇔	【授業の達成目標】
	２５Tカリ，２３Tカリ		
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。	⇔	博物館学芸員の実習に関する基礎を身につけることができる。
	２６Tカリ		
	【26T～】共通教育による幅広い教養と，工学の専門分野における基礎学力が身についている。	⇔	博物館学芸員の実習に関する基礎を身につけることができる。

(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、多文化協働、キャリア
(3)全学横断特別教育プログラム	
(4)授業の概要	事前学習として、博物館実習の概要や心得について学ぶと同時に、実習日誌の書き方について確認する。事後学習として、実習日誌の基に実習体験を反省するとともに、博物館の業務についての理解と認識をさらに深める。
(5)授業計画	第１回…博物館実習の概要、実習内容、実習日誌の書き方について 第２回…実習１ 第３回…実習２ 第４回…実習３ 第５回…実習４ 第６回…実習成果発表会(博物館への提言) 第７回…実習の振り返り(実習館概要／実習内容／実習の問題) 第８回…実習体験に基づく博物館業務の再確認(学芸員養成課程のでの学びのまとめ)、授業アンケートの実施
(6)成績評価の方法	受講の積極性と実習での成果物で評価する。
(7)成績評価の基準	実習のレポートと実習時の積極性を評価する。 学芸員になるための経験と学修の成果が上がったと判断されれば可、じゅうぶんな成果が上がったと判断されればば良、高い成果が上がったと判断されれば優、とくに高い評価があった場合は秀とする。
(8)事前事後学習の内容	レポート作成時に関連資料を自ら探すことが求められる。次回授業の内容について自ら資料にあたり、イメージを作りあげておくこと。
(9)履修上の注意	なし
(10)質問,相談への対応	メールにて受け付けます。 hoyano@shinshu-u.ac.jp（梅干野）
(11)その他	なし
【教科書】	指定しない
【参考書】	